



くみあいニュース 2022年度 第2号

2023年3月31日発行

例年より早いサクラの見頃。2022年度のくみあいニュース第2号をお届けいたします。
第2号の記事は、『理事とメンタルヘルスに関する意見交換実施』についてです。

理事とメンタルヘルスについて意見交換を行いました。

大学出席者：藤田理事，藤波理事，山本人事労務課長

組合出席者：中務委員長，林副委員長，西村書記長，山崎職員支部役員

職員支部から長期休暇取得者・休職者が多数でていることについて相談を受けました。また「教職員のメンタルヘルスへの対応」に関するアンケートの結果から高ストレスの教員・職員が多数いらっしゃる事が安全衛生委員会や産業医から理事へすでに報告されています。かつその改善の提案も行われています。(注1) これらを踏まえ、3/22に理事と意見交換を行いました。



メンタルヘルスに関する現状への危機感と、その改善に向けた対策の必要性を大学と共有し、率直な意見交換を行うことができました。今後は組合からの具体的な提案も検討し、働きやすい職場づくりに向けた労働条件の改善を目指します。

注1：第8回安全衛生委員会資料・議事要旨 https://intra.shimane-u.ac.jp/shuugyou/anzeneisei/committee_matsue/

○良好な職場づくり

働きやすい職場づくりは労使ともに重要です。メンタルヘルスによる休職者を作らない大学づくりは労務担当者にとっても課題であり、組合の要求と一致する点があるはずで、良好な職場づくりには労使共同での取り組みを提案し、労使関係づくりにつなげていきます。



○話し合う場づくり

働きやすい職場づくり、労働条件の改善は「話し合っで決める」プロセスが重要です。互いの立場を双方が理解したうえで単に反目するのではなく、話を聞かせる雰囲気作りも意識しながら交渉を静かに粘り強く行います。



島根大学職員組合 委員長 中務 明

○その他

・全大教 近畿・中四国 合同単組代表者会議

2月19日に18単組、29人がオンラインにて参加しました。高等教育報告として日本学術会議や就学支援制度の在り方が報告されました。加えて中教審のヒアリングに参加し、次期教育振興基本計画へ最終意見として反映されるように強く要望した取り組みも報告がありました。



また単組交流報告では組織拡大に関連して、テニユアトラックの教員に組合がどうかかわるのが話題となり、組合活動の意義・意味を丁寧に伝え、課題や悩みを聞き取る場を組合が作り出すことが大切であることを共有しました。島根大学からは中務委員長が参加し、学務事務一元化について話題提供を行いました。 『全大教新聞 405号より抜粋、一部編集』

・島根県国家公務員労働組合（県国公）主催の春闘討論集会

表記討論集会が2月22日18時15分より、対面・オンライン併用で開催されました。参加者は法務省や労働省など、島根県内の国家公務員および独法職員など20名でした。島根大学職員組合からも、情報収集や連携強化のため副委員長が参加しました。

討論集会では春闘に関わる内外の情勢についての講演がありました。また、離島手当や旅費支給など、島根県ならではの問題について情報共有することができました。県国公では人事院中国事務局と数回にわたって交渉しており、島根大学職員にとっても組合の役割がますます重要と考えられます。

・島根県中央メーデーについて

今年の5月1日には島根県中央メーデーが開催される予定で、県国公も実行委員会に加わっています。まだ感染症対策の必要があることから、デモ行進は行われず、スタンディングアピールのみとなります。昨年度はメーデーの歴史の紹介やデコレーション、ウクライナカラーのスティックバルーンを使った盛り上げなど、参加者には大変好評だったようです。今年度も同様の形態での実施が予定されています。平日ということで業務の兼ね合いもありますが、参加いただける方は組合までぜひお申し出ください。



島根大学職員組合（法文学部棟2階251室）：shimane-uu@soc.shimane-u.ac.jp
Tel & Fax (0852)32-6407,内線 2198（出雲キャンパスからは92198）